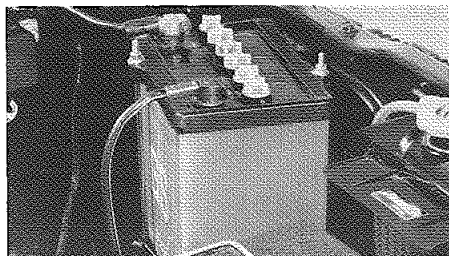


3 = バッテリーの点検



ターミナルにゆるみがあれば、締付けます。

白い粉、ほこり等で汚れている場合には温湯で清掃してください。この時、槽の中に温湯が入らない様ご注意ください。

ドライブ・テクニク

CORONA *MARK II 1900* HARDTOP GSS



経済的な運転

1. 車速にマッチしたギヤの変速を行なってください。

低速ギヤで高速までひっぱったり、トップ・ギヤでノッキングさせながら走るのはエンジンに悪影響をおよぼすばかりでなく、燃料消費を増大させます。

2. 加速はゆるやかに行ない不必要な急加速、急ブレーキは慎んでください。また、所要のスピードまで加速したら、できるだけ一定のスピードで走り続けます。これが燃料節約の秘けつです。

3. 不必要な高速走行は慎んでください。

4. 正しい取り扱いと十分な定期点検をすることにより、車の性能を100%発揮させることは、燃料消費を節約するもとにもなります。

5. 発進、停止の回数ではできるだけ少なくしてください。発進時には多量の燃料を必要とします。

6. エンジンの冷え過ぎは熱効率を悪くし燃費を増大させます。寒冷時にエンジンが暖まりにくいときには、エンジン前面に適なおおいをして冷却水温が80°C前後になるようにしてください。

ブレーキの上手な使い方

ブレーキを踏む場合は、周囲の状況に注意してください。特に後続車が接近して走っているときは、一、二度軽くブレーキをかけ、後続車に注意をうながしてください。

高速で走行している場合、また長い下り坂や急な下り坂では、フット・ブレーキに頼らず、エンジン・ブレーキを使用するのが安全です。フット・ブレーキは要所だけ使用するようにします。

坂を下る場合、ギヤは登りのとき使ったギヤを使うのが基本です。

もし、フット・ブレーキだけで長い坂を下りますと、フェード現象やペーパー・

ロック現象（後述）を起こし、ブレーキが効かなくなることがあります。

また、降雨時とか水たまりを走行しますと、ブレーキ・ドラム内に水が浸入し、一時的にブレーキがきかなくなることがあり、危険です。このようなときには、安全のため速度を落とし、ブレーキ操作をくり返しながしばらく走りますと、ブレーキ・ライニングの湿りが早く乾燥し、ききがよくなります。

フェード現象

ブレーキの摩擦面が過熱すると摩擦係数が急激に低下して摩擦力が減る結果、同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでも制動距離が非常に長くなるか効かなくなることがある現象をいいます。（ペダルの踏みごたえがある。）

ペーパー・ロック現象<ブレーキ>

ブレーキが過熱され、ブレーキ・フルードが沸騰して泡ができます。したがってブレーキ・ペダルを踏む力は気泡を圧縮するだけでライニングを押しつける力に

無断複製禁止

ならず制動力が極めて低下する現象をいいます。(ペダルの踏みごたえがフワフワする。)

シフト・ダウンについて

シフト・ダウンは、次の車速以下で行なってください。あまり高い速度のときにシフト・ダウンを行なうと、エンジンがオーバーランし、損傷することがあります。

○シフトダウン許容速度

1 速 へ	50 km/h 以下
2 速 へ	90 km/h 以下
3 速 へ	130 km/h 以下
4 速 へ	170 km/h 以下

雪路・凍結路の注意

雪路、凍結路を走るには、スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンが必要です。

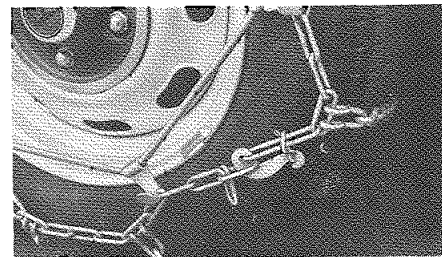
スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンの使用が条例により義務づけられている地域もありますのでご注意ください。

スピードの出し過ぎ、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。アクセル・ペダルの操作によりうまくエンジン・ブレーキで減速を行ないスピードをコントロールしてください。

このような路面でブレーキを踏みますとスリップや横滑りをおこしますから、前車との間隔は充分広くとり、急ブレーキを踏まなくてすむようにしましょう。もし車が横滑りをはじめたらブレーキ・ペダルを離し、フロント・タイヤを転がして車の進路をたて直します。タイヤがロックしますと操向不能になります。雪が少し積った程度で凍結していなくても同様の注意を払ってください。

タイヤ・チェーンをつけると、大きな駆動力は得られますが、横すべり防止の効果はほとんどありませんのでご注意ください。

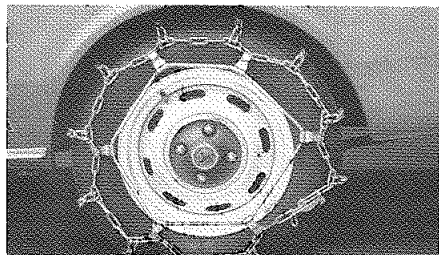
■タイヤ・チェーンのつけ方・外し方 つけ方



チェーンは後2輪につけます。まず輪止めをし、ジャッキ・アップをして、タイヤ・チェーンのクロス・チェーンの折曲げが写真のように外側になるようにしてタイヤの上にかぶせ、チェーンの両端を連結します。

チェーンを連結するときは、チェーンをいっぱい張って、タイヤの内側を先にかけます。

クリップはできる限り奥の環へかけ、余った環は針金等でむすび、ボデー等に当たるのを防止します。



つぎに、チェーン・スプリング・バンドの各爪を外向きにしてかけ、チェーンの環を張ります。

スペア・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、タイヤを取り換える方法にすれば比較的簡単に作業が行なえます。

はずし方

チェーン・スプリング・バンドを外した後、内側のクリップを先に外せば、チェーンはタイヤ外側へ自然に脱落します。

《注意》

外側のクリップを先に外しますと、チェーンは内側に入り、取外しが困難となりますのでご注意ください。

ラジアルタイヤにタイヤチェーンを装着

し、非雪路にさしかかった時は必ず、タイヤチェーンを取り外してください。そのまま走行されますとクロス・チェーンによってサイド・ウォール（タイヤの横の部分）が損傷します。

高速道路走行の場合の注意

1. 高速道路の本線への進入は、本線上の車に注意し、加速車線を一気に加速して、十分車速がついてから、ターン・シグナルを出してはいります。
2. 車間距離は十分保ちます。100km/h 時には 100 m 以上保ちましょう。
3. 高速での急ハンドル、急ブレーキはもっとも危険です。
4. 追い越しは、前もってターン・シグナルを出し、前後、特に追い越し車線の後方に注意し安全を確認したうえで、追い越し車線にはいります。インサイド・

リヤ・ビュー・ミラーに追い越した車の右のヘッドランプが見えるまで追い越し車線を走ってから、ターン・シグナルを出して走行車線に戻ります。

5. 道路標識に注意しましょう。高速道路では、行き過ぎても戻ることができませんので、出口の標識には特に注意してください。

6. 高速道路から出るときは、出口の案内標識に注意し、減速車線で十分速度を落します。ランプ・ウェイでは、制限速度を厳守しましょう。

7. 一般道路に戻りましたら、高速道路と同じ運転感覚で走行しますと、ついスピードを出し過ぎますので、ご注意ください。

8. 降雨時、特に水はけの悪い舗装道路を高速で走行する場合は、タイヤの路面への接地力が低下いたしますので、急ブレーキ、急加速、急ハンドルなどは慎しみ、スピードも控え目にします。

〔スパーク プラグ使用上のご注意〕

お車のプラグは低熱価の市街地用のものを取りつけてありますので、準レース走行（140 km/h 以上の連続走行）をされる時には必ず高熱価のプラグとお取りかえください。

低熱価のプラグで準レース走行をされると、プラグが焼損したり、ピストンが破損する場合がありますので、十分ご注意ください。

	高熱価プラグ	低熱価プラグ
プラグの種類	日本電装製 W22EP NGK 製 BP-7E	日本電装製 W20EP NGK 製 BP-6ES
走行条件	準レース走行	一般走行

〔タイヤ取扱い上のご注意〕

下表の空気圧力を必ず守り、許容最高速度以内で必ず走行してください。タイヤは安全のために、許容最高速度および空気圧力が定められております。

（下表をご参照ください。）

(1) 許容最高速度

タイヤの種類	許容最高速度	備 考
6.45 S 14 4PR	175 km/h	Sタイヤ
165 SR 14	180 km/h	ラジアルタイヤ
6.45 H 14 4PR	205 km/h	Hタイヤ

上表の許容最高速度を越さないでください。

(2) 空気圧力

走行するときの最高速度	100 km/h 以下	150 km/h 以下	150 km/h 以上
空気圧力 (kg/cm ²)	1.5 (前後輪共)	1.8 (前後輪共)	2.4 (前後輪共)

許容最高速度を越えて走行したり、空気圧力を誤って走行しますとタイヤが異常に熱せられ、破損するおそれがあります。特に高速走行時には、思わぬ大事故を起し非常に危険です。

緊急処理

1. ブレーキがきかなくなったとき

万一、フット・ブレーキがきかなくなりましたら、あわてずに、ギヤをシフト・ダウンし、パーキング・ブレーキをいっぱい作動させて車を止めます。

2. エンストをしたとき

踏み切りや交差点でエンストし簡単に始動できないときは、スターターで車を動かすことができます。

平坦路ならギヤをセカンドへ入れ、アクセル・ペダルをいっぱい踏んで、スターターをまわします。

スターターは長時間（20秒以上）作動させますと、損うことがありますので、ご注意ください。

3. オーバー・ヒートしたとき

オーバー・ヒートのときは次のような現象があらわれます。

水温計の指針が120°Cを越え、エンジンからキンキン音が発生したりして極端に

力がなくなってきます。

ラジエーターから蒸気が吹き出します。このようなときにはすぐにラジエーター・キャップをとらないでください。熱湯が噴出して火傷をすることがあります。オーバー・ヒート気味のときは次の処置をとってください。

❶車を止め、エンジン・フードを開けて通風を良くする。

❷エンジンをアイドリング回転より少し高め（1500回転位）、しばらく（5分～10分）運転する。

しかし、ファン・ベルトの切損（チャージ・ウォーニング・ランプが点灯する）ラジエーター・ホース等からの水漏れやラジエーターから蒸気が吹き出しているときにはエンジンをすぐに止めねばなりません。

❸水温が適温になりましたらエンジンを止めます。

❹オーバー・ヒートしたときは冷却水が少なくなっていることがありますので、

冷却水の点検、補給をしてください。

■夏期、オーバー・ヒートを防ぐには夏期は外気温上昇のため手入れ不十分な車はオーバー・ヒートを起こす危険性がありますので、次の事柄にご注意ください。

○冷却系統（ラジエーター、ヒーター・ホース等）に水漏れのあるときは、取扱店のサービス工場で点検をうけてください。

○ラジエーターの冷却フィンにゴミやこん虫の死がいが付着し、冷却効果を阻害していることがあります。

○ファン・ベルトの張り具合は正常ですか。（お出かけ前の点検36頁参照）冷却系統が完全でも、長い坂道を登り続けているときや混雑した市内を長時間、ノロノロ運転を続けているときに水温計が100°Cを越えることがあります。しかし、トヨタ車のラジエーターは、加圧式を使用していますので水温が100°Cを少し越えましても、ラジエーター・キャッ

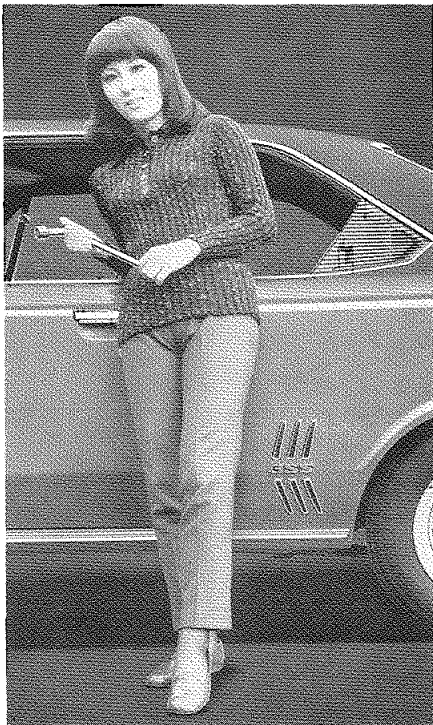
無断複製禁止

ブを外さないかぎり冷却水は沸騰いたしません。このようなときには次のような運転をしてください。

- (1) 交差点など減速するときは、フット・ブレーキをなるべく使わないで、エンジン・ブレーキを多用してください。
- (2) 特に長い坂道を登るときは、エンジンの低い回転数のところで無理をしないでミッションのギヤを一段おとし、エンジンの回転を上げて登るようにしてください。
- (3) 交差点などで停止したときは、アクセル・ペダルを軽く踏んで、エンジンの回転を1500回転位に高目にして、待機してください。冷却効果が大きくなります。

セルフ・サービスのしかた

CORONA *MARK II 1900* HARDTOP GSS



工具とジャッキ

